

の思託が書いた「大和尚伝」 大寺一派に追われて、空き寺 現在では「中日友好の象徴」

# 論壇時評

中嶋嶺雄

<上>

(探偵自覚)

ソ連軍による大韓航空機撃墜 いえようが、そのような国家が  
というショックな出来事 大きな力をもって現存している  
は、国際政治上の大問題になっ  
たばかりか、ソ連という軍事超  
大国の恐ろしい体質をいやがう  
えにもむき出しにした。同時に  
に、今日の国際事情の危険  
な断面を知らしめたのであり、  
私自身はこの事件の発生を知っ  
たとき、大韓機の乗客は米ソ  
新冷戦の犠牲になったのだと  
直感した。

今月の論壇誌でこの事件をフ  
ォローしているのは、時間的に  
いて週刊誌のみであるので、  
今回は新聞に出た論調にも言及  
しつつ筆をすすめてみたい。

まず今回の事件からむソ連  
の体質について、ソ連の国民性  
をよく知る森本忠夫は、「朝日  
ジャーナル」(九月十三日  
号)の「ジャーナル・インタビュー」  
で「一口でいえば『過剰  
安全保障癖』とでもいうべきも  
のです」と指摘し、たんにソ連  
当局のみならず、「上から下ま  
で、この『癖』は浸透していま  
す。この価値観をゆるがせるこ  
ととは、だれにもできない」と語  
っている。防ソ歴二十一年とい  
う森本だけあって、さすがにソ  
連の本質をよくつかんでいると

## 軍事超大国の恐ろしさ

ソ連軍による大韓航空機撃墜

### 今日の国際情勢の危険な断面

高坂の提言は、日本の対ソ外  
交の指針としても適切なもので  
ある。

山本章二・五十嵐武士・阪中  
友久の座談会「大韓航空機撃墜  
事件」(朝日ジャーナル・九月  
十六日号)は、国際法、アメリ  
カ政治外交史、安全保障の専門  
家を組み合わせたユニークなも  
のだったが、また情報量が限ら  
れていた時点で「緊急分析」  
であるだけに、いささか物足り  
ない。前田哲男・進藤栄一の  
提言する高坂氏

高坂は、「今回の事件の処理  
はソ連の指導部の団結を示して  
ソ関係」(エコノミスト・九月  
いるとみなくてはならない」と  
二十日号)も同様の「緊急対

## 文化



磯村 敏之・画

いい、指導部内の分裂とかクレ  
ムリンと軍の第一線指導者との  
軋み(そ)といった見方を排  
したうえで、「ソ連がきわめて  
つき合いく国」であること  
を強調し、「しかし忘れられて  
ならない」と、そうした体制  
は案外安定していて長続きする  
ものなのである」と見なしてい  
る。だから「甘い希望も持た  
ず、過剰の懸念や嫌悪感に動か  
されるのを避けて、冷静に行動  
する」と以外に道はない」とい

談だが、「軍事技術が高まれ  
ば高まるほど、危機管理能力は  
逆に低下せざるを得ないと進  
藤が強調し、「一つの故障が決  
定的なミスを招くという、まっ  
たく違った(危機管理)システム  
の脆弱性を新たに生み出して  
いる」と前田も同意している点  
は、やはり重要な論点であろ  
う。

そのした文脈では、事件当  
時、ワシントンにいた桃井真が  
「大韓機」非情な教訓(説  
い。あのように対ソ非難が激高  
忠衛も「大韓航空機事件が残し

これだけが生きる道だと  
せ、都会的な生活に変わっ  
確かに持っている。



## 村からの歌

岡野弘彦

ひたすらに冬畑打ちて今  
目を終へたり  
千葉県 土屋 好  
冷書も風水害も予知出来  
ず来作らむと種籾を出す  
御殿場市 勝亦 菊作  
うす潤りしつと嵩増す北  
上の雪代水を引きて畦空  
る 宮城県 佐藤 一郎  
これらの作品は、行政上は  
市になっていても、実質的に  
は村、それも農村的生活の中  
から詠まれた作品である。選  
歌欄が(この)傾向の作品は  
かりたといつのではない。だ  
か短歌定期のうちに抽らえて

非作時代以来、延々とこの  
う。

もつ少し、例をあげてみよ  
この怪の犬ふぐりの花咲  
く思はむ  
小平市 種村 千秋  
ひちくして田螺を食はん  
土泥にまられ漁りし所ぞ  
この住宅団地  
茅ヶ崎市 鈴木博代三郎  
両隣り壁越しに住む男等  
とつき合ふことなく十五  
年経つ

横濱市 第二平  
一首目の歌などは、都会に  
住んでいる者にはほとんど共  
感のない歌、あるいは観念的  
(歌人)

働く老年人たち

そういう過渡期の不安定さ  
に生きて、またなむむむとの  
歌欄が(この)傾向の作品は  
かりたといつのではない。だ  
か短歌定期のうちに抽らえて

大韓航空機自身  
の責任も大きい  
今回の事件では、たしかにソ  
連の撃墜が厳しく糾弾されねば  
ならないが、大韓航空機の責任  
は、きわめて重大だ。韓国が最  
単な事実を指摘したい」と江川  
特派員は言う。

## 黑板

「まず日本でもあまりにも簡単に  
見過ごされている点として、大  
きいといわれる今日、戦争や軍事緊  
張をいかにして回避すべきかと  
いう切実な問題を新しく私たち  
に突きつけた。  
この点で岩島久夫(これから  
の戦争はどうなる?)」(時事評  
話03・33頁17670。  
転居 中園英助氏 東京都  
杉並区我孫山四二二四、電  
話03・33317670。  
日本民芸館講演と映画の夕べ  
10月1日午後6時、日本民芸  
館新館。水尾比呂志氏「棟方志